

2020年度 病院医学教育研究助成成果報告書

報告書提出年月日	2021年 4月 2日
研究・研修課題名	バスキュラーアクセス管理研修会の受講
研究・研修組織名(所属)	日本臨床工学技士会
研究・研修責任者名(所属)	郷原茜(MEセンター)
研究・研修実施者名(所属)	郷原茜、原 有彩、古谷昭人(MEセンター)

成果区分	<input type="checkbox"/> 学会発表 <input type="checkbox"/> 論文掲載 <input type="checkbox"/> 資格取得 <input type="checkbox"/> 認定更新 <input type="checkbox"/> 試験合格 <input checked="" type="checkbox"/> 単位取得 <input type="checkbox"/> その他の成果()
該当者名(所属)	郷原茜、原 有彩、古谷昭人(MEセンター)
学会名(会期・場所)、認定名等	第 回バスキュラーアクセス管理研修会
演題名・認証交付元等	日本臨床工学技士会
取得日・認定期間等	
診療報酬加算の有・無	<input type="checkbox"/> 加算有() <input checked="" type="checkbox"/> 加算無

目的及び方法、成果の内容**①目的**

当院血液浄化部は入院透析のみを受け入れる施設であり、地域の慢性維持透析患者の合併症トラブルに対して先進医療を行う使命がある。令和2年の診療報酬改定により経皮的シャント拡張術(PTA)の3か月の算定縛りがなくなり、今後より一層のPTA目的入院が増加するものとする。また、当部は昨年度、富士フィルム社製FC1-Xというアクセス観察用超音波診断装置を購入した。良質な透析を行っていく上でバスキュラーアクセスを良好な状態に保ち、長期的に維持していくことはスムーズな穿刺に必要な不可欠であり、管理方法としてエコーを用いた方法が関連学会からも推奨されている。従来は、看護師による聴診器の音による観察のみであったが、近年はバスキュラーアクセスの管理を臨床工学技士が行っている施設も多く、穿刺部位のマッピング作成を事前に行い、穿刺トラブルを回避している報告も多い。また、日々の観察をすることは患者とのコミュニケーションという点で大きな意味がある。本研修会を受講し、新しいバスキュラーアクセスの管理を当院に取り入れ、より良い透析の提供、穿刺時の時間短縮や業務の円滑化を目的とし、受講する。

②方法

日本臨床工学技士会主催のバスキュラーアクセス管理研修会 eラーニングを受講する。

I期、II期をそれぞれ受講した。

③成果

今回のバスキュラーアクセス管理研修会では、臨床工学技士のためのバスキュラーアクセスの日常管理指針の概要説明から血管解剖の知識と理学所見やバスキュラーアクセスを観察する上で重要なエコーの基礎知識や原理について、エコーを用いた血流機能評価や形態評価について学ぶことが出来た。現在、当院の血液浄化部ではバスキュラーアクセスの作成、観察を医師が行っているが、臨床工学技士が行えるようになれば医師の負担を減らす、働き方改革の一助にできると考える。

また、日本臨床工学技士会の示すバスキュラーアクセス日常管理指針に準じた安全な管理方法を学ぶことによってバスキュラーアクセストラブルの早期発見、穿刺時の時間短縮、刺し替えのリスクを軽減させることが可能になり、より良い透析を提供することができるとともに、業務の円滑化につながるものとする。研修会で学んだことを繰り返し復習し、エコー操作等の実技も練習しながら定着させていき、今後より一層当院での透析治療に活かし貢献できるよう精進していこうと思う。また、透析治療に携わる同職種に知識を共有しチーム全体の知識・技術向上を図りたい。